

かわ

Vol.215 2012.10.1



Contents

わがまちのかわ(嘉麻市 遠賀川) P1~P2
河川愛護絵画コンクール.....P3~P7
河川功労者表彰

九州北部豪雨.....P8
福岡の身近な川とさかなを知ろう.....P9~P10
水辺の鳥図鑑 / 協会からのお知らせ

わがまちのかわ



第15回

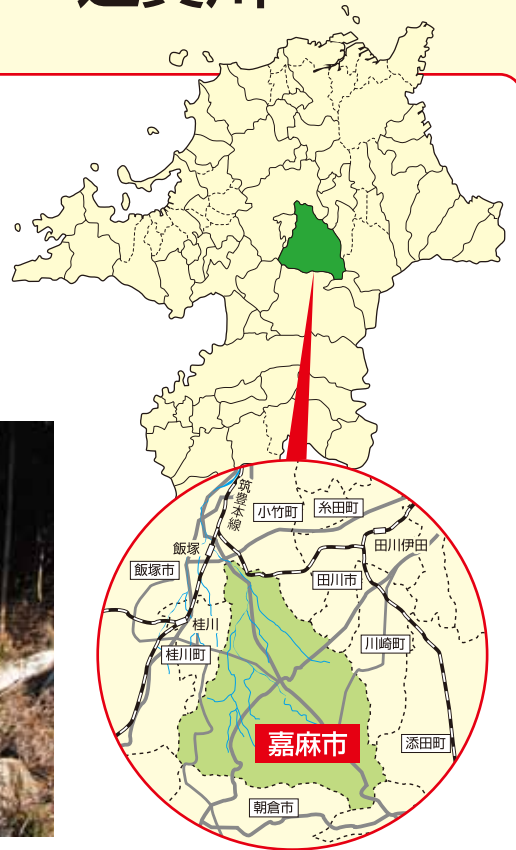
嘉麻市

遠賀川

嘉

麻市は福岡県のほぼ中央に位置し、平成18年に誕生した新しい市です。国道211号線が南北に、322号線が東西に通過しており、福岡都市圏、北九州都市圏から1時間程の距離にあります。

市全体の約70%が森林と耕作地で、多様な生態系を有する山林や河川が広がる水と緑が豊かな自然にあふれたまちです。流域の豊かな土壌を生かした食味の良い米を筆頭に九州では珍しいリンゴをはじめ、ナシなどの果物や新鮮な野菜の栽培が盛んに行われています。



遠賀川

市の南東部の馬見山、屏山、古処山、戸谷ヶ岳などの山林を源とする遠賀川は、市を南から北へと流れています。

遠賀川は九州で唯一鮭が遡上する川として知られていましたが、地域が産炭地として栄えていた時代は川全体が黒く染まり鮭も上がらなくなりました。

現在は様々な愛護活動を通じ、本来の川の姿を取り戻しています。

また、遠賀川源流点や鮭神社、河童の伝説など、遠賀川には生活に関わったまつりや伝説が多くあります。



遠賀川源流サケの会

遠賀川は九州で唯一鮭の遡上する川として知られています。鮭の孵化・育成・放流を行い、活動を通じて水や命の大切さを伝えていきます。



鮭の稚魚の放流事業



鮭の孵化場

遠賀川源流の森づくり推進会議

遠賀川の源流の地を人工林から広葉樹の森に戻すことで“水とみどりの循環”を見つめ直し、自然と人間の共生を求めた「命の水」を育む豊かな森づくりをおこなっています。



嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会

遠賀川に繁茂している沢山の葦が毎年夏の大雨で河口堰や海岸に流れて下流に大変迷惑をかけていることから、周辺の葦を梅雨前に刈り取り、搬出して堆肥づくりを行っています。



八反田・川のぼりイカダレース

毎年5月のゴールデンウィークに開催。参加者の手作りによるイカダで往復1.2kmのタイムレース！大会終了後にはみんなでクリーン作戦を行っています。



山田川クリーン作戦

毎年春秋の2回、遠賀川の支流である山田川の清掃を行い、市民が親しみやすい山田川を再生させることを目的に活動しています。また地元中学校の生徒に標語をお願いして山田川をきれいにする看板を設置しています。



「山野の楽と河童」

昔、池に住んでいた山野の河童たちは、埋め立てにより住処を追われました。怒った河童たちが水の便を悪くしたため、村では火事が頻繁に起こるようになりました。村人たちは、河童たちに「年に一度、お祭りをお願いしますので、遠賀川に移ってもらえませんか」とお願いをしました。その河童との約束が「山野の楽」で河童まつりとも呼ばれています。



絵画コンクール 入賞発表



平成24年度

河川愛護絵画コンクール表彰式を行いました。

今年も、河川愛護月間(7月1日から7月31日)事業の一環として、河川愛護意識の高揚を図るために、小学校児童を対象とした河川愛護絵画コンクールを実施しました。「わたしたちと川の関わり」をテーマに、児童が日ごろ親しんでいる川との関わりや、こうあってほしいなという願いをこめた作品が多く寄せられました。



表彰式の様子

ここでは、特選3名の作品及び一等6名の作品と、全入賞者を紹介します。

また、ここで紹介した特選作品を、平成25年度の河川愛護月間ポスターの図柄に使用する予定です。



講評

川のほとりに飛び交うたくさんのホタルの情景を見たうれしさが顔の表情から伝わってきます。羽を広げて空を飛んでいるホタルと羽を閉じて草むらにいるホタルの様子をよく観察しています。また、夜空を黒ではなく、あい色を薄く塗ることで表現する工夫も見られるなど、絵の具とクレヨンを使って美しい色合いで仕上げられています。

特選
低学年

赤村立赤小学校 上赤分校〈1年〉

うえだ なぎ
上田 風さん

わたしは、かぞくみんなで、ほたるをみにいったところをかきました。まつくらなところをたくさんのほたるがとんでいました。ぴかぴかひかたり、きえたりして、とてもきれいでした。

あかむらにほたるがいっぱいいるのは、あかむらのひとたちがしぜんをたいせつにしているからだとおもいます。あかむらには、きれいなかわや、みどりがきれいなやまやたんほがたくさんあります。きれいなみずがあるから、ほたるがすみやすいとおもいます。ひとも、すみやすいとおもいました。

わたしも、みずやみどりがきれいなところがすきです。だから、これからも、かわをきれいにしていきたいです。みんなにも、かわをたいせつにてもらいたいとおもってかきました。

河川愛護

平成24年度



「メダカの住める川をとりもどそう」

とよつ
みやこ町立豊津小学校(4年)

だいまる はやと

大丸隼人くん

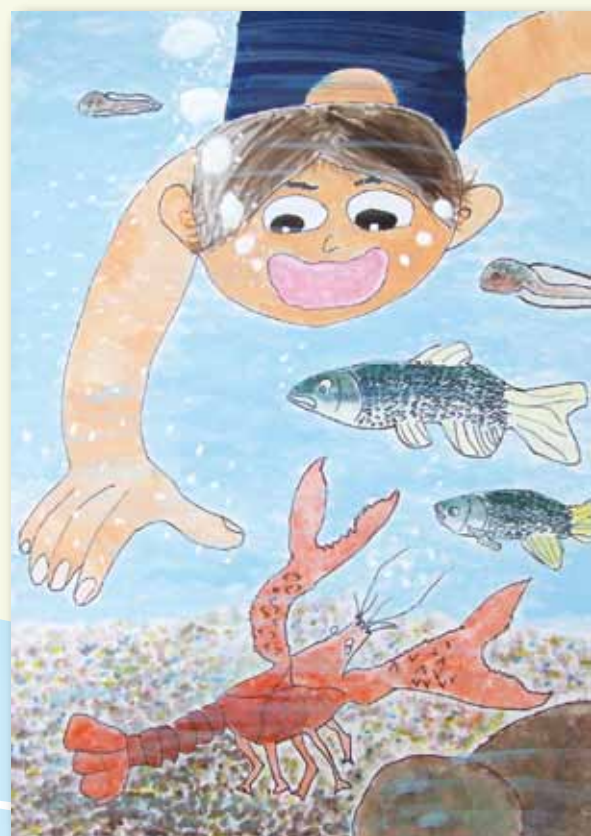
ぼくが住んでいる町には、今川という大きな川が流れています。今川は海に近いので、車で川のそばを通ると、魚の他にカモメによく似た鳥もいて、人からエサをもらっている所をよく見かけます。お父さんが、「昔は、今川の上流には、メダカやフナ、ハヤがたくさんいて、素もぐりでつかまえていたんだよ。」と話してくれました。

学校で先生が、「昔からのクロメダカは少なくなって、今は観賞用や教材用のヒメダカが多いよ。」と「めだかのぼうけん」という本を見せてくれました。

メダカの目はとても大きくとび出しています。背びれ、腹びれ、尾びれは透明で、とてもきれいな魚です。ぼくは、お父さんが話してくれた素もぐりでメダカと泳ぎたくなりました。「かわいいメダカが安心して住める田んぼや小川を守りたい。」そんな気持ちをこの絵にこめました。

講評

魚を捕まえようとする力のこもった作品に仕上がっています。左右の手の大きさの違いや大きく曲がった右うで、ぐっと踏ん張っている両足の形、魚を見つめる目には浮世絵を連想させるおもしろさが見られ、この作品の魅力となっています。魚の細かな部分までよく観察し、にじみの効果をうまく生かしており色彩豊かに表現しています。



「はじめて川の中に入ったわたし」

かたしま
蒨田町立片島小学校(5年)

ねすみ ありさ

根角有彩さん

わたしは本当は川にはいったことはないけど、いつか入って見たいなあと思ってこの絵を書きました。

わたしは小石の所をくふうして色をかさねたりしました。なぜかと言うとほんとうの小石みたいにしたかったからです。赤、青、緑などいろいろかさねてかきました。もう一つ本当の水の中にいる見たいに線をかいた所です。水の流れが分かるように、筆をうまく使って表現しました。

わたしはザリガニと魚とおたまじゃくしを川の中にかきました。川の中にとらいいなと思いました。わたしの家の近くの川には、魚はいますがザリガニはいません。ザリガニやおたまじゃくしが、いっぱいいるようなきれいな川になったらいいなと思います。

講評

川の中にもぐってザリガニを見つけた喜びが顔の表情からわかります。また、ザリガニを捕まえようとする手を力強く描くことで絶対に捕まえてやろうという気迫が伝わってきます。魚やザリガニ、川底の石の色をよく観察し、その色に近づくよう絵の具を混ぜてつくったり、最後に画面全体に水色を薄く塗って水の中にもぐっていることを表したりして技術的にも工夫が見られます。

河川愛護 絵画コンクール



みやこ町立節丸小学校〈1年〉 **松本 実由菜**さん



みやこ町立節丸小学校〈4年〉 **田中 宏晃**くん



みやこ町立豊津小学校〈2年〉 **渡邊 優樹**くん



みやこ町立豊津小学校〈5年〉 **奥本 蓮太**くん



みやこ町立節丸小学校〈3年〉
もり もと けい た
森元 携太くん

全体 講評

本年度は特に低学年の児童作品に優秀なものが見られました。表現した主題はきれいな川で遊んでいる様子や魚を捕らえた一瞬からその楽しさや感動を表現した作品が多かったようです。その中でも絵の中に自分が登場した作品が多く、私と川との関わりが一層伝わってきました。感動したことを絵にするために大切なことは実際に自分が体験してみることです。実際に川の水に触れてみて、その流れや冷たさを感じたり、川の中や周りにはどのようなものがあるのかを観察したりすると描こうとする主題が見つかると思います。来年度もみなさんの川に対する想いを巡らせた作品を期待しています。

福岡県教育庁教育振興部 義務教育課
指導主事 高野 直幸



苅田町立白川小学校〈6年〉
にし むら しょう た
西村 翔汰くん

平成24年度 河川愛護絵画コンクール入賞者 (敬称略)

特選

上田 凧	1年	赤村立赤小学校 上赤分校
大丸 隼人	4年	みやこ町立豊津小学校
根角 有彩	5年	苅田町立片島小学校

一等

松本 実由菜	1年	みやこ町立節丸小学校
渡邊 優樹	2年	みやこ町立豊津小学校
森元 携太	3年	みやこ町立節丸小学校
田中 宏晃	4年	みやこ町立節丸小学校
奥本 蓮太	5年	みやこ町立豊津小学校
西村 翔汰	6年	苅田町立白川小学校

二等

横溝 想英	1年	豊前市立宇島小学校
棚田 琉瑚	1年	赤村立赤小学校 上赤分校
山崎 陽生	2年	みやこ町立豊津小学校
工藤 豪人	2年	みやこ町立祓郷小学校
乗富 章光	3年	柳川市立矢ヶ部小学校
木下 彩愛	3年	行橋市立椿市小学校
菊谷 癒海	4年	みやこ町立犀川小学校
宮原 康成	4年	みやこ町立豊津小学校
藤木 椋太	5年	柳川市立蒲池小学校
宮武 郁弥	5年	苅田町立片島小学校
高辻 凜	6年	みやこ町立節丸小学校
原田 彩良	6年	みやこ町立節丸小学校

三等

川邊 那月	1年	みやこ町立節丸小学校
植村 ここ	1年	みやこ町立上高屋小学校
大場 蒼一郎	1年	赤村立赤小学校 上赤分校
坂本 虎皇	2年	柳川市立豊原小学校
佐藤 堇	2年	柳川市立豊原小学校
獅々戸 怜桜	2年	苅田町立片島小学校
古賀 彩花	3年	柳川市立矢ヶ部小学校
石橋 由麻	3年	柳川市立矢ヶ部小学校
山下 愛湖	3年	柳川市立矢ヶ部小学校
江嶋 彩斗	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
高松 鈴奈	4年	行橋市立泉小学校
大水 佳南	4年	みやこ町立豊津小学校
関 亜寿華	5年	行橋市立仲津小学校
新貝 優花	5年	行橋市立椿市小学校
金丸 航大	5年	みやこ町立豊津小学校
緒方 郁磨	6年	苅田町立片島小学校
細川 真太郎	6年	苅田町立片島小学校
前田 峻輔	6年	苅田町立白川小学校

佳作

荒川 雛瑠	1年	柳川市立豊原小学校
郷田 久明日	1年	柳川市立豊原小学校
深梅 颯太	1年	豊前市立宇島小学校
田村 光	1年	豊前市立宇島小学校
中川 斗哉	1年	行橋市立蓑島小学校
橋本 みなも	1年	行橋市立蓑島小学校
上松 和花葉	1年	苅田町立苅田小学校
浅野 美優	1年	みやこ町立節丸小学校
宮本 ほのか	1年	みやこ町立節丸小学校
森元 翔也	1年	みやこ町立節丸小学校
進戸 航平	2年	直方市立新入小学校
朝原 貫次	2年	直方市立新入小学校
田中 みゆう	2年	直方市立新入小学校
吉村 たいせい	2年	直方市立新入小学校
相原 彩乃	2年	苅田町立片島小学校
森 けいな	2年	みやこ町立上高屋小学校
寺坂 瑠人	2年	みやこ町立豊津小学校
山口 颯斗	2年	みやこ町立豊津小学校
白川 涼	2年	みやこ町立節丸小学校
蓑干 志人	2年	みやこ町立祓郷小学校
吉田 光	3年	柳川市立蒲池小学校
後藤 麻耶	3年	柳川市立蒲池小学校
大坪 海翔	3年	柳川市立蒲池小学校
高口 稀和	3年	柳川市立矢ヶ部小学校
吉永 咲来	3年	行橋市立椿市小学校
田中 優奈	3年	行橋市立椿市小学校
三苦 花楓	3年	行橋市立椿市小学校
井上 眞	3年	行橋市立椿市小学校
木田 実希	3年	みやこ町立節丸小学校
宮本 悠香	3年	みやこ町立節丸小学校
乗富 大輝	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
島添 由麻	4年	柳川市立矢ヶ部小学校
城 紫乃美	4年	みやま市立竹海小学校
渡辺 匠	4年	みやま市立竹海小学校
大木 愛理	4年	みやま市立竹海小学校
有馬 美月	4年	みやこ町立諫山小学校
田中 秀真	4年	みやこ町立節丸小学校
田中 佑修	4年	みやこ町立節丸小学校
氏原 若菜	4年	柳川市立昭代第二小学校
梅崎 昂司	4年	柳川市立昭代第二小学校
楠見 泰成	5年	直方市立直方南小学校
高倉 千咲子	5年	直方市立感田小学校
秋永 愛友	5年	行橋市立仲津小学校
梶島 剛	5年	行橋市立延永小学校
山本 唯斗	5年	行橋市立延永小学校
藤木 真聖	5年	行橋市立延永小学校
杉本 望綾	5年	行橋市立延永小学校
童岡 蓮志	5年	苅田町立苅田小学校
野川 彩花	5年	苅田町立片島小学校
総本 響華	5年	みやこ町立豊津小学校
井上 理子	6年	柳川市立蒲池小学校
阿津坂 京助	6年	柳川市立蒲池小学校
森本 菜々花	6年	苅田町立苅田小学校
中原 光	6年	苅田町立片島小学校
西田 裕貴	6年	苅田町立白川小学校
井上 裕喜	6年	苅田町立白川小学校
村田 康平	6年	苅田町立南原小学校
林 耀大	6年	みやこ町立豊津小学校
前田 修希	6年	みやこ町立豊津小学校
田村 なつき	6年	みやこ町立節丸小学校



絵画コンクール参加小学校には
記念品として、サッカーボール等を
贈らせていただきます。

河川功労者表彰

河川の維持管理に多大な貢献をされた皆様に対して、8月27日の河川協会通常総会の席上で表彰を行いました。
河川功労者とは、河川の機能保全、改善のために、特に力を尽くしその功績が顕著な個人並びに団体のことを指します。

知事表彰は2団体3名、河川協会長表彰は3団体3名で次のとおりです。

福岡県知事表彰

- ◆(飯塚) 麻生平様 あそう たいら
- ◆(久留米) 合戸吉雄様 ごうと よしお
- ◆(宗像) 早川信孝様 はやかわ のぶ たか
- ◆(京築) 城井川を愛する赤幡ボランティア白岩会様 きいがわ あい あかはた しろいわかい
- ◆(京築) 上本庄養徳会様 かみほん じょうよう とくかい

河川協会会長表彰

- ◆(北九州) 旧栄盛川をきれいにする会様 きゅうえい せいかわ かい
- ◆(北九州) 延命寺川河川愛護会様 えんめい じがわ か せんあい ごかい
- ◆(北九州) 穴生第1自治区会宮川愛護会様 あのお たいいち じちく かいみやがわあい ごかい
- ◆(北九州) 横川省太様 よこかわ しょうた
- ◆(朝倉) 古賀國光様 こが くにみつ
- ◆(京築) 楠本鉄雄様 くすもと てつお



表彰式の様子



平成24年7月九州北部豪雨について

福岡県内における雨量と被災状況

大雨の状況

7月11日から14日にかけて、福岡県をはじめとする九州北部では記録的な大雨となり、各地に甚大な被害が発生しました。

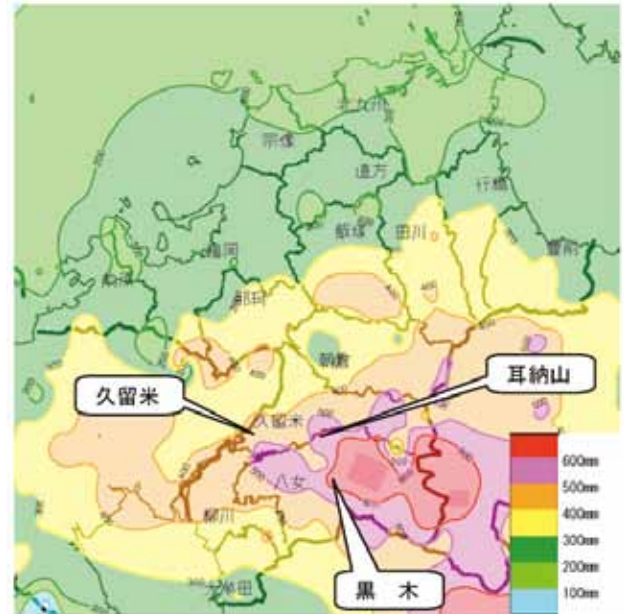
この雨は、「平成24年7月九州北部豪雨」と呼ばれ、観測所によっては、7月の月降水量平均値の1.5倍以上を4日間で観測しました。

福岡県の雨量

4日間の総雨降水量(11日から14日まで)

- ◆黒木(八女市)……………649.0mm
- ◆耳納山(久留米市)……………602.0mm
- ◆久留米(久留米市)……………469.0mm

※福岡管区気象台資料より



被災状況

沖端川



星野川

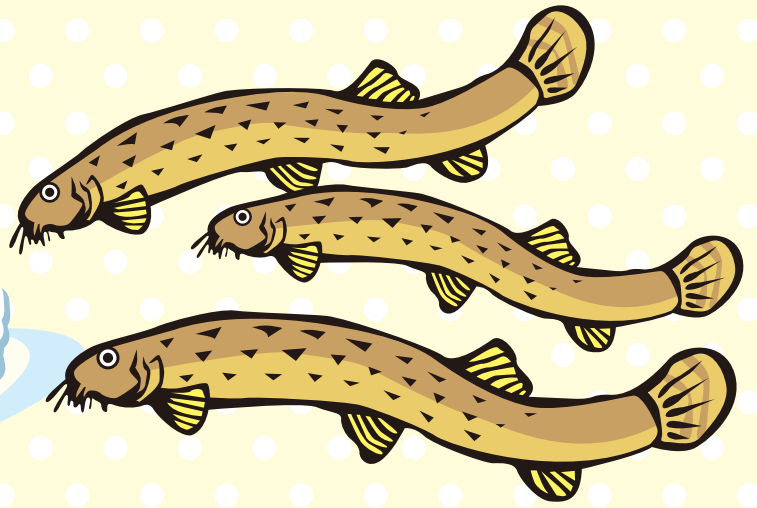


鬼倉徳雄



ふくおかの身近な

川とさかなを 知ろう!! No.20



— 幸せな魚、不幸せな魚 —

5 月1日の佐賀新聞のニュースに、とても感動的な情報が流れました。見出しは「佐賀平野のクリーク大補修 12年間で750キロ整備」です。整備の距離に感動したわけではありませんし、やっとクリークが補修される、といった感動でもありません。私の感動はその中身で、「県営部分は県産間伐材を使った木柵工法採用、従来のコンクリート護岸よりも大幅なコスト減と工期短縮」および「木柵工法は耐用年数を考慮してもコンクリートより安価」という部分です。実は、クリークを含め、農業用水路の整備事業では、コンクリートを使用するのがこれまでの一般常識でした。そして、その結果、数多くの水田・水路に生息する淡水魚たちが劇的に数を減らし、軒並み絶滅危惧種に指定されています。以前紹介したように(Vol. 201)、コンクリートで護岸された水路でのニッポンバラタナゴの生息個体数はそうでない

水路よりも大幅に少ないですし、福岡県内からはほとんど姿を消してしまったカワバタモロコに至っては、コンクリート護岸化されると全く生息できなくなることが科学的に証明されています(私のHPIにも類似情報を掲載中)。

に も関わらず、私が経験した水路補修に関する協議会等の場面では、生物多様性への配慮を訴え、コンクリートを使わないでほしい旨の発言をしても、なかなか聞き入れてもらえませんでした。そういう意味で、今回の佐賀県の判断はこれまでの常識を覆す英断です。新聞にはコスト減、工期短縮などが取り上げられておりますが、それだけではありません。生物多様性保全上も極めて高い評価を受けるべきだとここに宣言します。一方、同じ有明海沿岸域を持つ福岡・熊本県は、、、少なくとも、数年前に私が調査した限



古い木柵工水路



コンクリート化された水路

りでは、佐賀県側のクリークに比べて福岡・熊本県側のコンクリート護岸率が高かった、...。佐賀県内のクリークに棲む魚たちはとても幸せ、福岡・熊本の魚たちは不幸せと言えるでしょう。地元の間伐材を使った地産地消、工事コストが削減、生物多様性保全にもつながる佐賀県の今回の事業が、近隣県の農業水路網の管理・補修等に波及していくことを期待したい!



カラドジョウは口ひげが長いのが特徴(眼径の約4倍)。
日本のドジョウは口ひげが短い点(眼径の約2倍)が分かりやすい区別点。

と ころで、絶滅危惧種に指定される淡水魚たちのその生息を脅かす原因で多いのは何なのでしょう?河川工事?ダム建設?もちろん、そういう魚も幾つかありますが、...。ここで、私の講義資料を紹介しますが、筑後川水系に生息する純淡水魚は36種、その半数が絶滅危惧種もしくは準絶滅危惧種。そして、その絶滅危惧・準絶滅危惧18種のうちの11種は、主要な生息場所が農業用水路・水田地帯です。河川では、生態系に配慮した多自然川づくり技術が既に導入されて、希少な野生生物への配慮がしっかりと行われるようになってきました。水田・水路では、...。残念ながら、減反や農家の高齢化問題など、農業政策の現場は様々な問題を抱えており、学術的に生態系配慮技術が確立できても、現場になかなか反映されないのが実情なのでしょう。

そ ういった難しい問題を抱えるからこそ、地域の自治体はいろいろとがんばっています。一次産業を基盤とするある地域での「休耕田に水を張り、そこで淡水魚を養殖する事業計画」というものを、つい最近、小耳にはさみました。休耕田に水を張ると、ゲンゴロウ類などの水生昆虫、トノサマガエルなどの両生類が増えるかもしれません。魚が専門の私でさえも、その地域の水田地帯に生息する生き物にとって幸せな環境が増すことを予測できます。そして、地域活性のための起爆剤となりえるものだと思えます。ただ、一つだけ残念なのは、放流・養殖対象魚が琵琶湖にのみ生息する魚なのです。以前、紹介しましたが、九州に生息しない魚が九州に定着してしまったら、それは国内外来魚です(Vol. 199)。水田は養殖のために作られた場所ではありませんので、何かの拍子に魚が逃げ出してしまうかもしれません。そして、そのままその地域の野生下に定着してし

まったら、その魚は外来魚というレッテルを張られた不幸せな魚になってしまうのです。また、そこに元々棲んでいる在来の生き物たちに何かしらの悪さを働くかもしれません。

実 は、こういった事例は最近ときどき目にする「知らずに不幸な魚を作ってしまうケース」です。最近、ある農業用水路で環境省外来生物法要注意種のカラドジョウ(中国原産)を採集しましたが、「休耕田を遊ばせておくのはもったいない。水を張って、釣餌屋さんでドジョウを購入して、放流して増やそう」という試みの中で、たまたま仕入れた魚が外来魚だった、といったことを私は想像しています。こういった決して悪意のない形、そして、先の地域活性を目指した善意のケースでも不幸せな魚は作られてしまう可能性があります。些細なことでも遠慮せずに専門家にご相談ください。幸いなことに、福岡県保健環境研究所には数名の生物の専門家がいますので、比較的広い分類群に対応可能です。そして、大学の研究者よりも親しみやすく、相談しやすいかもしれません。もちろん、淡水魚に関連した相談は私も大丈夫ですので、メールでお願い致します(九大HPの教員情報でメールアドレスが検索できます)。

鬼倉 徳雄 (おにくら のりお)

- 九州大学大学院農学研究院・助教
- 日本魚類学会自然保護委員会・希少魚類部会委員
- 日本水環境学会九州支部・評議委員

主な著書／

- 有明海の生きものたち干潟・河口域の生物多様化(佐藤正典編)
- 干潟の海に生きる魚たち有明海の豊かさと危機(日本魚類学会自然保護委員会編)

水辺の鳥図鑑

亜麻鷺

ア マ サギ

コウノトリ目サギ科
(学名: Bubulcus ibis)

- 撮影者: 犬鳴川流域文化研究会: 中村氏
- 撮影地: 犬鳴川流域



コサギに似た白色のサギであるが、繁殖期には頭頸(とうけい)部、上胸、背などの羽毛はキツネ色を帯びる。全長約52センチメートル。日本には夏鳥として飛来し、本州、四国、九州で繁殖する。水田、放

牧地、農耕地などにすむ。食物は主として昆虫類。竹やぶなどに集まって集団繁殖する。

協会からのお知らせ

河川事業現地研修

- ◎日時: 10月25日(木)~26日(金)
- ◎場所: 鹿児島県
- 主催: 福岡県河川協会

平成24年度 九州地方治水大会

- ◎日時: 11月2日(金)
- ◎場所: 熊本市
- 主催: 全国治水期成同盟会連合会等

平成24年度 治水事業促進全国大会

- ◎日時: 11月30日(金)
- ◎場所: 東京都千代田区 砂防会館別館
- 主催: 全国治水期成同盟会連合会

福岡県災害復旧実務講習会(第2回)

- ◎日時: 12月 予定
- ◎場所: 福岡県建設技術情報センター
- 主催: 福岡県県土整備部河川課・福岡県河川協会

表紙の説明

河川愛護絵画コンクール 特選作品

河川愛護月間(7月1日から7月31日)の行事として実施した、平成24年度河川愛護絵画コンクールの特選3名の作品です。



編集後記

本県は、7月の九州北部豪雨により、筑豊・筑後をはじめ甚大な被害を受けました。このため、平成24年度通常総会を当初の予定から、1月遅らせて8月27日に開催いたしました。総会の席上、絵画コンクールの入賞者、河川愛護団体の表彰がありました。表彰を受けられた皆様大変おめでとうございます。それから、この豪雨で被災された皆様の一日も早い復興を願うばかりです。(猿渡)

STAFF

発行・編集 / 福岡県河川協会
 〈福岡県県土整備部河川課内〉
 〒812-8577
 福岡市博多区東公園7-7
 TEL: 092-633-2826(直通)
 FAX: 092-643-3669
 企画 / 森田印刷所

福岡県河川協会ホームページ <http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/>